## 令和３年度「仲間づくりの教室」が８月から開催されました

大阪市教育委員会が主催の「障がい者交流学習事業」として開催されている「仲間づくりの教室」は、昨年度から大阪市手をつなぐ育成会が主管となり、今年も開催することになりました。

「仲間づくりの教室」の趣旨・目的は、「生涯学習大阪計画」に基き、知的障がいのある人が社会人として充実した生活を送るために、社会生活に必要な知識・技能を習得する機会、さらには体育・レクリエーション及び余暇活動に参加する機会を提供し、仲間づくりと自主性の育成を図り、障がいのある人の社会参加を促進するものです。

【大阪市立阿倍野学習センター講堂にて】

受講生の定員数は１６０名で、AからHの８組に分かれプログラムに沿って受講します。

活動内容は、生け花・手工芸・音楽・創作活動・年賀状づくり・新春を祝う会・お楽しみ会等です。

通常は令和３年４月から令和４年２月まで全２０回のプログラムですが、今年も昨年と同様に新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、８月から全１３回の予定での開催となりました。

【音楽：紙と紙コップを使っての演奏準備】

開催にあたっては、会場となる大阪市阿倍野市民学習センターの使用規則を遵守し、参加者にはマスクの着用、手指の消毒、検温を徹底してお願いし、密を避けるために各会場の定員を半数に減らす等、しっかりとコロナ対策を行いました。

指導の先生は１８名で、主に大阪府立の支援学校の先生方です。それぞれの専門を活かし、受講生にわかりやすく、自主性を高めながら楽しめる内容となるよう工夫していただいています。

８月、９月は「音楽」と「創作」が開催されます。

【先生方の演奏会】

「音楽」の授業の前半では、紙と紙コップを使用して、先生のリズムに合わせ皆で演奏しました。

後半は先生方による演奏会が行われ、それぞれ先生方が得意な楽器で、アニメソングや誰もが聞き覚えのある色々な曲を披露され、皆が熱心に聴き入りました。

【創作：ペン皿を作成中…】

「創作」の授業は、革細工で“ペン皿とコースター”を作りました。

材料は先生方が準備しますが、自分が好きな色の革を選び、先生のアドバイスを聞いて、それぞれデザインを考えながら、思い思いの革を貼りつけて個性豊かな作品が出来上がりました。

【完成したペン皿】

コロナ禍ではありますが、楽しみに通われる受講生の皆さんに、安全で安心して楽しく活動できる場として、「仲間づくりの教室」を開催したいと吉田運営委員長は話されていました。